

腰椎分離症・すべり症について

腰椎分離症とは

腰椎分離症とは背骨の『椎体』と後ろ側に着いている『椎弓』が左右両方または片方分離してしまうことで起こる病態です。

腰椎すべり症は『腰椎変性すべり症』と『腰椎分離すべり症』に分けられます。

『腰椎変性すべり症』は加齢により椎間板が変性し、靭帯・筋肉の緩みなどにより上下の椎体がずれている状態をいいます。閉経後の女性に多く見られます。

『腰椎分離すべり症』は発育期の身体の柔らかい時に、ジャンプや腰の回旋運動をすることで椎体と椎弓の間に亀裂が入り起こります。

症状について

持続的な腰痛や下肢痛を訴える方もいらっしゃいますが、動けなくなるような激痛の方もいらっしゃいます。特徴的なのは腰部の屈曲よりも伸展時に痛みを訴える方が多いことです。

腰椎分離症・すべり症の治療について

まず、整形外科にて精密検査が重要です。

当院では分離している椎体と椎弓が片方だけだった場合はその不安定性から来る捻れを矯正し、MYOPULSEの通電により安定を求めます。

また、すべり症に至っている場合は、上下の椎体のバランスを取るよう矯正し、MYOPULSEの通電で疼痛の緩和及び関節の安定性をもとめます。